

第279回原医研セミナー

第43回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2026年4月28日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：原発事故地域における放射線リテラシーの特徴とその規定要因：5 地域比較横断研究

発表者：福島県立医科大学 医学部 放射線健康管理学講座
講座等研究員 阿部 暁樹 先生

【背景】2011年の原発事故後、防災やリスクコミュニケーションの文脈において放射線リテラシーが重要視されているが、その地域差と規定要因は十分に解明されていない。本研究は、放射線に関わる歴史的背景が異なる5地域（原発事故・原爆投下・原発立地・放射性廃棄物処理場・コントロール）の成人992名を対象に、放射線リテラシーの地域差と媒介要因を横断的に検討した。

【方法】ウェブ調査（2025年1月）にて放射線リテラシー7カテゴリーを測定し、情報収集源および一般的科学リテラシーを媒介変数とした構造方程式モデリングを実施した。東日本大震災時の社会的立場を考慮し、32歳を基準とした多母集団解析を行った。

【結果・結論】原発事故地域は全カテゴリーで最高水準を示し、事故後の継続的なリスクコミュニケーションの蓄積がリテラシー向上に寄与した可能性が示唆された。また、そのメカニズムは世代によって異なり、若年層ではActive media（学校教育・講演会など）が主な媒介経路であることが示された。

タイトル：TERTプロモーター変異は甲状腺乳頭癌の放射性ヨウ素治療抵抗性と関連する

発表者：長崎大学原爆後障害医療研究所 分子腫瘍・診断学分野

教授 光武 範吏 先生

甲状腺乳頭癌（PTC）は最も頻度の高い甲状腺癌であり、一般に予後は良好であるものの、遠隔転移を伴う症例ではしばしば治療に難渋する。甲状腺はホルモン合成にヨウ素を必要とする特徴があり、この性質を利用して、術後には放射性ヨウ素（RAI）治療が広く行われている。一方で、一部の症例では腫瘍がヨウ素を取り込まなくなり、治療に反応しない放射性ヨウ素不応性（RAI不応性）となる。このような症例は予後不良であり、治療前に予測が可能となれば治療の最適化が可能となる。

本研究では、日本人PTC症例を対象に、腫瘍における遺伝子変異、特にBRAF変異およびTERTプロモーター変異と、RAI不応性や臨床病理学的特徴との関連を検討した。その結果、これらの遺伝子異常の中でも、特にTERTプロモーター変異はRAI不応性や進行した病態と強く関連することが示された。さらに、分子異常と臨床情報を統合したモデルを作成し、治療前にRAI不応性を予測できる可能性が示唆された。本研究の知見は、患者ごとのリスクに応じた治療選択や不要な治療の回避につながり、医療資源の適正化および患者の生活の質の向上に寄与することが期待される。